

フィンランド語初級講座④

「目的語」

関連する他の動画

「フィンランド語文法：初級⑨」

「フィンランド語：重箱の隅①～④」

資料掲載サイト

「フィンランド語との対話」 [<https://yoshidakingo.com/>]

フィンランド語初級④：「目的語」テキスト

- ①Kauppatorilla juomme ukin kanssa kahvia ja syömme lihapiirakkaa. Sen jälkeen kävelemme torilla ja katselemme kojuja. Ostamme kantarelleja ja sipulia. (Koto-Suomi, 21)

市場で | 我々は飲む | おじいさんの | 一緒に | コーヒーを | そして
| 我々は食べる | ミートパイを。その | 後で | 我々は歩く | 市場で |
そして | 我々は見る | 露店 (屋台) を。我々は買う | アンズ茸を | そし
て | 玉ねぎを。

②Menen käymään vessassa, ja sillä aikaa ukki katoaa! Ensin mietin, missä hän voi olla. Sitten kuulen musiikkia, ja hän istuu lähellä museon jukeboxia ja kuuntelee musiikkia. (Koto-Suomi, 21)

私は行く | 訪れに | トイレに |、そして | その | 間に | おじいさんは | 消える！まず | 私は考える |、どこに | 彼は | ありうる | いる。それから | 私は | 聞こえる | 音楽が |、そして | 彼は | 座っている | [近くに | ジュークボックスの] | そして | 聞いている | 音楽を。

③Ostamme myös ison savulohen. Kun syömme jäätelöä, lokki lentää lähelle ja vie ukin jäätelöpallon! (Koto-Suomi, 21)

我々は買う | また | 大きな | スモークサーモンを。[~のときに | 我々は食べる | アイスクリームを]、カモメは | 飛び | 近くへ | そして | もっていく | おじいさんの | アイスクリームの球を!

④Katselemme matkamuistoja. [...] Itselleen hän ostaa Suomi-mukin. (Koto-Suomi, 21)

我々を見る | おみやげを。[...] 自身へ・彼の | 彼は | 買う | Suomi マグカップを。

フィンランド語初級④：「目的語」解説

●属格の目的語＝「全体目的語」

⇒ 目的語となる名詞全体に何らかの影響が及ぶ

Ostan *pyörän*. 私は自転車を買う。

(自転車を壊して一部分だけ買うことはできない)

●分格の目的語＝「部分目的語」

⇒ 目的語は何かの全体ではなく一部分をさす

Ostan *viiniä*. 私はワインを買う。

(「ワイン」というものの全体ではなく影響が及ぶのは一部)

- 結果的に「分けられない名詞（可算名詞）」は属格になることが多い。

Ostan *kirjan/auton/pyörän/talon/lipun*.

私は本を/自動車を/自転車を/家を/切符を買う。

- 結果的に「分けられる名詞（不可算名詞）」は分格になることが多い。

Ostan *viiniä/kahvia/teetä/lihaa/leipää*.

私はワインを/コーヒーを/お茶を/肉を/パンを買う。

- 「分けられない名詞（可算名詞）」でも、否定文では「分格の目的語（部分目的語）」になる（否定文では影響は目的語全体には及ばないから）。

Ostan *pyörän*. 私は自転車をかう。

En osta *pyörää*. 私は自転車を買わない。

- 目的語が原則として「分格の目的語（部分目的語）」になる動詞もある。その場合には「分けられない名詞」（「数えられる名詞」「個体名詞」）であっても分格にする。代表的なのは次の動詞。

odottaa 待つ

auttaa 助ける

ajatella 考える

opiskella 勉強する

käyttää 使う

rakastaa 愛する

(Minä) odotan *bussia*. 私はバスを待っている。

- 同じ動詞が「属格＝全体目的語」をとる場合と「分格＝部分目的語」をとる場合がある。その場合には意味に違いがある。

Hän lukee *kirjan*. 彼女は本を読む。

Hän lukee *kirjaa*. 彼女は本を読んでいる（途中だ）。

Hän ampuu *karhun*. 彼は熊を撃つ（そして仕留める）。

Hän ampuu *karhua*. 彼は熊を撃つ（が、熊は逃げるかもしれない）。

- kuka「誰」という語と人称代名詞だけは、属格は目的語にならない。その代わりに「対格」という「全体目的語」になる形がある。

主格	属格「~の」	分格「~を」	対格「~を」
kuka	kenen	ketä	kenet
minä	minun	minua	minut
sinä	sinun	sinua	sinut
hän	hänen	häntä	hänet
me	meidän	meitä	meidät
te	teidän	teidä	teidät
he	heidän	heitä	heidät

Tunnen *Liisan*. 私は *Liisa* のことを知っている。[属格＝全体目的語]
 Tunnen *hänet*. 私は彼女のことを知っている。[対格＝全体目的語]

* 「部分目的語」になるのは、やはり「分格」

En tunne *Liisaa*. 私は Liisa のことは知らない。

En tunne *häntä*. 私は彼女のことは知らない。

● 属格の形が目的語になる場合を「対格」と呼ぶことがある。これは、形の上では同じだが働きが異なるために用語を使い分けている。

Pyörän hinta on 1000 euroa. [属格]

自転車の価格は 1000 ユーロである

Ostan uuden *pyörän*. [対格]

私は新しい自転車を買う